

会議等経過報告書

件名	令和元年度 第1回大船渡市民文化会館運営審議会
日時	令和元年7月25日(月) 10:00~11:00
場所	リアスホール マルチスペース
出席者	市民文化会館運営審議会委員 7名(欠席6名) 出席委員 大和田典明委員、酒井丈夫委員、佐藤幾子委員、鈴木雅美委員、千葉賀子委員 矢作清英委員、鷺田あかね委員 事務局 新沼企画政策部長、金野館長、水野補佐、田代係長、谷川企画運営員、熊谷主事
報告者	企画政策部 市民文化会館 熊谷 堯之

会議の概要

1 開会(進行:金野館長)

2 挨拶(矢作会長、新沼企画政策部長)

3 報告(進行:矢作会長)

(1)報告第1号 平成30年度市民文化会館自主事業実施状況について

水野補佐が資料に沿って説明した。

金野館長が、昨年度自主事業の来場者アンケートについて、回答の一部を紹介した。

(鈴木雅美委員)

平成26年~29年のおおふなとキッズコレクションは、入場者数が100人を超えているが、平成30年度の来場者数が20人と激減した理由は何だったのか。

(谷川企画運営員)

時期的な問題があったと思う。

平成30年度については、開催時期は例年と異なり10月中頃に行った。そのため、参加者数が極端に少なく(12名)、その分お客様の人数も減ったと分析している。

(2)報告第2号 平成30年度市民文化会館の主な貸館・自主事業実績について

水野補佐が資料に沿って説明した。

金野館長が、昨年度の稼働状況について、東北及び岩手県内公立文化施設の状況を説明した。

(千葉賀子委員)

利用率について、他館と比較してどのように考えているか。

小規模施設とは利用の用途が違うため、一概に比べられない部分もあると思うが、事務局としては利用率についてどのように分析しているのかお聞きしたい。

(水野補佐)

当館の状況としては、稼働率は横ばいだが利用者は年々減少傾向にある。

要因として考えられるのは、類似施設の開業や、大きく言えば人口減少があげられると思うが、その他の理由として利用者層の固定化が考えられる。

例えば、高齢者層は大ホールでのおどりの会などのイベントがあると集まる傾向にあるが、会議室等を会場とした講演会などの催し物にはなかなか足が向かないということがある。

そうすると、企業関係者などの会議や研修会といった、働いている世代の利用率が高まり、利用者の年代が限定されることで、全体的な利用人数の減少につながっているのではと感じている。

(千葉賀子委員)

このリアスホールは、色々な使い方ができるので便利だと思うが、大ホールを使っの自主事業の状況を見ると、演者の方々に申し訳ないぐらいお客の入りが少ないことがある。

このような現状を、事務局としては今後どのようにしていきたいと考えているか。

(水野補佐)

自主事業の来場者は減少しているが、ただ、平成 30 年度については事業数が多かったこともあるが、年齢等による割引制度も設けるなどして集客に努めた。

あとは、プログラムの問題も考えられる。前年度はクラシック音楽のイベントが多くなる傾向にあったが、今年度は大ホールでのクラシックのイベントは 2 回、さらには身の丈にあった規模で、観客との距離が近いマルチ de サロンコンサートに加え、リアスホールダンジョンや歌舞伎、人形劇といった市民参加型の目新しさを考えたイベントを多く開催する。

しかし、やはり自主事業だけで集客を図るのは難しい部分があるため、これからは貸館を増やしていくことが大事なのかなと思っている。

その試みのひとつとして、まだ相手からの反応はないが、仙台にあるプロモーターに依頼をかけるなどしている。

このような小さな取組からはじめて、将来は若い世代向けのポップスコンサートや、年輩の方にも来ていただけるイベントを呼び込める手立てを考えていきたい。

(金野館長)

もうひとつ、イベントの周知方法についてかねてからご指摘いただいていたが、SNS はもちろんのことチラシ・ポスターは市内のみならず県内の主な館等に配布している。

あとは、地元紙やラジオを通して周知に努めていきたいと考えている。

4 協議（進行：矢作会長）

協議第 1 号 令元年度市民文化会館自主事業の進行状況について

水野補佐が資料に沿って説明した。

谷川企画運営員が、今年度自主事業の来場者アンケートについて、回答の一部を紹介した。

(大和田典明委員)

資料に、「リアスホールサイエンス教室 調整中」とあるが、これは今どのような状況で話が進んでいるのか。

(水野補佐)

リアス・ウェーブ・フェスティバルのメニューのひとつとして、やっていただくことを考えているが、現在調整中である。

(大和田典明委員)

なかなか利用率が上がらないという状況の中で、このサイエンス教室は子どもたちにとってリアスホールに興味を持ついいきっかけ、思い出になるのではと思う。

5 その他（進行：金野館長）

金野館長が、東北及び岩手県内公立文化施設の指定管理者制度導入状況について、「県内では、75.9%が指定管理者が管理運営している。」などと説明した。また、リアスホールの管理運営方針について、開館当初は「当面直営」とされ、平成29年3月策定の大船渡市公共施設等総合管理計画においては、「経費を削減する目的だけの指定管理者の導入は、施設の性質上馴染まないことから、市立図書館との整合性を確保したうえで、効率的な運営に努めつつ、慎重に判断する必要がある。」とされたなどと経緯を説明した上で、「今後、他館の指定管理の状況などさまざまな角度から調査研究を行い、委員各位の意見を伺いながら、経費削減だけでなく、芸術文化振興の効果的な管理運営のあり方について、引き続き検討していきたい。」と述べた。

(千葉賀子委員)

これから慎重に、審議をしながら決めていかなければならないことではあるが、市民憲章の中に「文化薫るまち大船渡」という文言があったと思うが、それを考えると市のほうで今までやってきたとおりに進んでいけば良いのではと私は思う。

この指定管理者の件について他の委員の方々の意見も聞いてみたい。

(酒井丈夫委員)

催し物の宣伝についてであるが、周りの人に聞いてみると「わからない」という声も多い。ここは、毎月出ている市の広報をもっと活用すべきと思うがどうか。

(水野補佐)

当館の主催事業については広報に掲載しているが、主催元の異なるイベントについてはホームページには載せているものの、広報にそれを掲載するのは紙面の関係もあり、難しい状況である。

(新沼企画政策部長)

先ほどの館長の話だが、指定管理にする、という話ではなく、今後の社会情勢や他の自治体の状況などを考えると、市直営ではない運営方法もあり得るのではないかとということ。選択肢の一つとして、今後検討を深めていくということである。芸術文化の振興ということが第一の目的であり、それを達成するためにどういった運営方法がよいのかを模索する中で、その中で指定管理についても考えなければならないという点を、ご理解いただきたい。

6 閉会（金野館長）